

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 } 殿
農業資材販売等関係者

福岡県病虫害防除所長

麦類赤かび病の適期防除の実施について

本年は小麦、大麦ともに出穂期が平年より早くなっていることから、防除は平年より早く実施する必要があります。今後の気象情報及び生育状況に十分留意し、防除の徹底を指導願います。

技術情報

- 1 作物名 麦類
- 2 病虫害名 赤かび病
- 3 麦類の生育予想
麦類の生育が早く、出穂期は小麦、大麦ともに平年より4～6日程度早くなる見込み。

表 農業総合試験場における出穂期予想

麦種	品種名	播種期	予想出穂期	平年差	前年差
小 麦	アコトイミ	11月 18日	4月 6日	-5	-6
	シカトミギ	11月 20日	4月 5日	-5	-4
二 条	アサカ-ルト	11月 25日	4月 5日	-6	-5
	ほうしゅん	11月 25日	4月 4日	-6	-5
大 麦	ニシガキ	11月 25日	4月 1日	-4	-5
	はるしずく	11月 25日	4月 1日	-	-5

注1) 福岡県米麦大豆生産改善速報第9号(平成21年3月19日付)から作成

注2) 平年: H10～H19年の平均、「ほうしゅん」は前5年の平均

注3) -: データなし

- 4 防除上注意すべき事項
 - (1) 主要感染時期である開花期から開花10日後までに暖かい雨(平均気温15以上)に遭遇すると、本病が多発する可能性が高い。福岡管区气象台3月20日付け発表の1か月予報では、気温及び降水量は平年並とされている。天候は周期的に変化すると予想されているため、今後の気象情報には十分注意する。
 - (2) 小麦の防除適期は、開花期(出穂期後7～10日頃)である。適期防除を実施後、降雨が続く場合はその7～10日後に2回目の防除を行う。

- (3) 二条大麦の防除適期は、穂揃期後約10日頃（出穂期後12～14日、葯殻が抽出し始める頃）である。この時期は収穫前30日頃となるため、薬剤の選定に当たっては、収穫前規制に留意する。
- (4) 裸麦の防除適期は、穂揃期（出穂期後2～4日）である。適期防除を実施後、降雨が続く場合はその7～10日後に2回目の防除を行う。
- (5) 出穂期は、播種日、品種及び今後の気温の変動等によりほ場ごとに異なるので注意する。
- (6) 降雨の合間に薬剤防除を行う場合、液剤は散布後一旦乾けば降雨があっても薬剤の効果はある。しかし、粉剤の場合は、散布後6時間以内に降雨があった場合は薬剤の効果が低下するため、天候に留意する。
- (7) 防除に当たっては、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守するとともに、周辺圃場への飛散防止対策を講ずる。特に、薬剤によっては、小麦、大麦で農薬使用基準が異なる場合があるので注意する。



図1 小麦赤かび病の病徴



図2 二条大麦の防除適期の指標となる抽出始めの葯殻
(九州沖縄農業研究センター原図)

5 その他

麦類の検査規格では、食用麦の赤かび病被害粒の混入限度は0.0%である（赤かび病被害粒が0.05%以上混入している麦類は規格外となる）。また、小麦穀粒に含まれるかび毒（DON）の暫定基準値は1.1ppmで、この値を超える小麦は流通できない。